

文部科学大臣賞/Glocal SDGs賞

栃木県立小山西高等学校

J R C 部

SDGsカルタ会・地域貢献ボランティア



活動期間

1988年4月～（90回ほど活動）

構成人数

高校生32名

**SDGs
テーマ**



推薦メッセージ

小中学生にSDGsを楽しみながら理解してもらうためオリジナルSDGsカルタを制作して、カルタ会を実施している。子どもたちにもわかるように17の目標を解釈して表現し、46種類の読み札を考え、絵札のイラストを描き上げた。毎月行われる地域清掃は、内陸のごみを減らすことが海洋ごみの流出の防止につながると考え10年以上継続している。清掃活動は、当初JRC部で始めたものであるが、現在は、委員会や生徒会、有志へと学校全体に広がっている。また、住みよいまちづくりをめざし地域への貢献活動にもかかわっている。

栃木県立小山西高等学校 校長 佐藤 弘道

活動内容

部活動として、地域との繋がりを大切にしながらさまざまなボランティアをしています。関わった地域の方々への感謝とつながった関係を大切に、新たに楽しめる活動を創成してボランティアのかたちに限界を決めることなく地域に貢献しています。

○小中学生向けカルタ会

現在、小中学生のSDGsの理解と推進のために制作したカルタで、カルタ会を開催しています。カルタの企画から完成までは1年という長い時間を要しました。まず、目標の17個を46の頭文字に割り振り、各々の目標を解釈して標語のような文を作ります。読み札の文ができたならそれに合わせた図案を考えていきます。顧問の先生に文章を添削していただいたあと、美術部を兼部している部員がデザインをチェックして色塗り作業に入ります。たくさんの文や絵がボツになってやっと完成したカルタです。サイズはA5版で紙にプリントしたものをラミネートし、教室の床や体育館など広いところに広げて、参加者は立って札を取ります。絵が描いてある取り札の裏側は、SDGsの何番の目標の文かがわかるように色分けし、目標の言葉が書かれています。小学生のために、やさしい日本語に変えて、漢字にはルビを振りました。実際にやってみて、小学生や中学生だけでなく大人の方にも楽しんでいただけました。

活動内容

○清掃活動 環境問題への取り組みは、毎月行う地域の清掃活動のほか、校内の生徒や先生に呼びかけて水質浄化剤に加工できる使い捨てカイロをはじめ使い捨て



ソフトコンタクトレンズケース、ペットボトル、エコキャップ、古紙などの資源回収も行っています。

○地域貢献

また、まちづくりのための地域貢献もしています。小山市内のNPOの方や大学生と共に、まちづくりの提案をフィールドワークや企画会議を定期的に行ってまとめ、魅力あるまちづくりをユース世代の視点で提案し報告会を開きました。私たちの活動を知ってもらうため、商店会のイベントやショッピングモールでミニFM局のユースラジオを開局し、イベント案内や中継や情報発信をしました。定例の活動としては、毎月の保育所と高齢者施設に大型カレンダーやちぎり絵キットの制作と寄贈、お年寄りとのWEB交流会の開催、おもちゃ図書館の開館案内やおもちゃの貸し出しなど、地域に根差した活動をしています。



JR小山駅西口商店会主催のまちおこしイベント「西口まつり」で、ミニFM局ユースラジオ放送の様子

栃木県立小山西高等学校 JRC部 (3)

01.活動をはじめたきっかけ

これからの未来を生きる子供たちがSDGsを理解して行動できるように

栃木県の高校生青少年赤十字メンバーが集まる研修でSDGsについて学び話し合う機会がありました。事前学習でSDGsについて調べると、紛争や災害、気候変動、貧困などにより、私たちがあたりまえだと思っていた生活が脅かされていたり全くできなかつたりしている現実を知り、この解決は赤十字の目標である「人道の実現」と同じであると気づき、SDGsを広めるために自分たちにできることとしていきたいと考えました。そのためには、これからの未来を生きる子供たちが理解して行動していくことが大切という結論に至り、子供たちが楽しめてためになるカルタなら、ゲーム感覚で興味を持ってもらえると思い、自分たちでオリジナルのカルタを制作することになりました。



中学校の総合的な学習の時間でのカルタ取りの様子

02.活動から学んだ・感じたこと

私たちが普通の生活を送れるのは偶然にすぎない

SDGsは途上国だけの問題ではなく、世界中で関係することです。生まれた場所や性別の違いで学びたくても学べない、生きたいように生きられないのはこの日本でも起きています。私たちが普通の生活を送れるのは偶然に過ぎないと実感しました。カルタを実施すると子どもたちは札取りに夢中になり、SDGsにも興味を持ってくれました。札の縁の色で何番かわかってくる子もいて驚きました。札を取る度に行うクイズにより興味が理解へと定着する感じがしました。

地域清掃は、ごみを撤去しても1か月後にはまたゴミが増えています。道端の家庭ごみや同じ場所に同じゴミが捨てられることを腹立たしく感じますが、いつか路上に捨てる人がいなくなり、自分たちの行為が海のごみを減らすことにつながるという気持ちで取り組んでいます。また、まちづくりの活動により、学校のある小山市が大好きになりました。

03. 継続するためのこれからの工夫

SDGsカルタをきっかけとした 新たな活動に発展

カルタ会を始めた頃は、札取りをしたあと最後にSDGsについて説明をしていましたが、皆が頭文字のひらがなを探しているだけでSDGsの理解が深まっていないことに気づいたので、1枚取る毎に各々の目標に関する4択クイズを出すことにしたり、目標番号の札が偏らないように読み札の順番を考えたり、クイズも2種類作って同じ番号の札が来ても対応できるようにしたり工夫してきました。今後は、小学生にもう少し問題を易くする予定です。また、公園など屋外で札取りをして、SDGsに関心を持った上でゴミ拾いや廃棄品利用のワークショップをするなど、カルタをきっかけとして新たな活動を加えていきたいと考えています。

地域清掃も、地域の方が手伝ってくれた経験から、地域の住民の方や近くの小中学生と一緒に実施して、地域ぐるみの清掃活動に発展できたら素晴らしいと思います。

活動の略歴

- 昭和63年～ JRC活動開始
- 平成12年～ おもちゃ図書館・高齢者施設ボランティア開始
- 平成23年～ 保育所ボランティア開始
- 平成24年～ 地域清掃開始
- 令和3年～ SDGsカルタ企画・制作開始
まちづくり活動開始
- 令和4年～ SDGsカルタ完成 カルタ会を随所で不定期実施